

## 市民憲章

所沢市は武蔵野台地の自然に恵まれ鎌倉街道の拠点として発達し  
日本人が初めて大空にはばたいた記念すべき街である  
この歴史と環境の上に立ち  
未来に向かってうるおいの文化都市をめざす  
人は市の誇りである  
こころのふれあいを求め友情の輪をひろげよう  
恵まれた自然はいのちの泉である  
みどりを守りやすらぎの街を創ろう  
こどもは市の宝である  
胸深く刻まれるふるさとを伝えよう  
所沢市は市民のためにある  
一人ひとりが自らまちづくりを進めよう

(昭和62(1987)年3月31日制定)

## 平和都市宣言

武蔵野の緑豊かな自然のなかで、やすらぎに満ち、健康で生き生きとした日々を送ることが、私たち市民共通の願いです。

私たちは、国是の非核三原則を厳守し、戦争という過ちを繰り返さないことを願うとともに、限りある資源を大切にし、かけがえのない地球環境を守り、平和な世界が確立されることを強く望みます。

所沢市民は、基地全面返還を求め、未来に向かって平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。

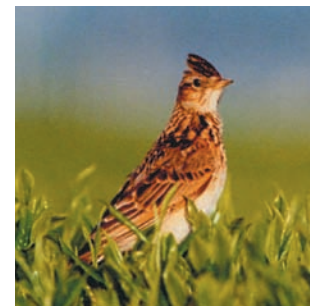
(平成2(1990)年7月1日制定)



市の木：いちよう



市の花：茶の花



市の鳥：ひばり

## 『ゆとり・うるおい・活力ある生活文化都市』 をめざして



私たちのまち所沢は、首都圏30Kmにあつて、豊かな自然と都市機能が調和した埼玉県南西部の中心的な都市として、多くの人々によって刻まれた市制55周年の歩みとともに発展を続けています。

本市では、平成13(2001)年3月に“ゆとり・うるおい・活力ある生活文化都市”を21世紀初頭の将来都市像とした第4次所沢市総合計画・基本構想と前期基本計画を策定し、環境施策の推進や都市基盤の整備、社会福祉の充実など、地域の特性を活かしながら、市民、団体、事業者の方々と市が「みんなでつくる」の協働意識のもと、総合的かつ計画的なまちづくりを進めてまいりました。

しかしながら、前期基本計画を策定してから既に5年の歳月が経過し、市政を取り巻く社会状況は大きく変化しています。明るい兆しは見えつつも回復したとはいえない経済情勢を背景に、行財政改革や人口減少時代の少子高齢化対策、団塊の世代の方々の退職が一斉に始まる2007年問題、国と地方の関係を見直し地方分権を進める三位一体の改革など、歴史的な転換期を迎えています。さらに、市民生活におきましても、これまで以上に「安全・安心」が求められています。

そこで、これまでの計画の成果をふまえ、このような時代の潮流に的確に対応し、市民の皆様生活全般にわたって安全・安心で、ゆとり・うるおい・活力ある暮らしを実感していただくための本市の道しるべとして、目標年次を平成22(2010)年とする後期基本計画を策定いたしました。この計画では、多岐・多様にわたる市民ニーズのなかから、今後5年間に重点的に取り組む事業を選択し、限られた財源のなかで、効果的・効率的な行財政運営の推進をめざしています。また、各施策の目標を市民と市が共有できるようまちづくりの「指標」と「目標値」を設定いたしました。

計画の策定作業は、平成15年度の市民意識調査に始まり、平成16年度には、77名の公募市民による市民委員会と75名の職員の協働により、約10ヶ月間をかけて「素案」を作成しました。平成17年度には、この「素案」をベースに計画の実現可能性という観点からさまざまな検討を行うとともに、パブリックコメントなどを通じてより多くの市民の皆様の声を反映できるようつとめてまいりました。

このように、多くの市民の皆様を支えられた策定作業は、まさに、基本構想に掲げた「みんなでつくる」という視点を具体化した取り組みであり、こうした協働の取り組みを一つひとつ積み重ねていくことによって、信頼と相互理解に基づいた、より良いまちづくりが進展するものと確信しております。

今後も引き続き、「住んでみたい、住んで良かった、住み続けたい」と多くの方々から感じていただけるよう、将来都市像の実現に向け、33万8千人の市民の皆様と共に、さまざまな課題の解決に積極的に挑戦してまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたりまして、市議会をはじめ、審議会や市民委員会など、さまざまな機会を通じてご協力いただきました多くの市民の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成18年3月

所沢市長 齋藤 博